

# 土・まち・みどり

通信第6号

2001. 11. 7

発行 土とみどりを守る会

連絡先 3718-8558 (柳島)

- CONTENTS ◆秋のつどいレポート ◆おくさわ今と昔 ◆夏のつどいレポート  
◆グリーンサムのお庭拝見 ◆秋のつどい第1部・住まいと街を語る Part2  
◆第2部・一杯のお茶から学ぶ東洋の心 ◆会からのお知らせ ◆土地の動き情報

## 秋のつどいレポート

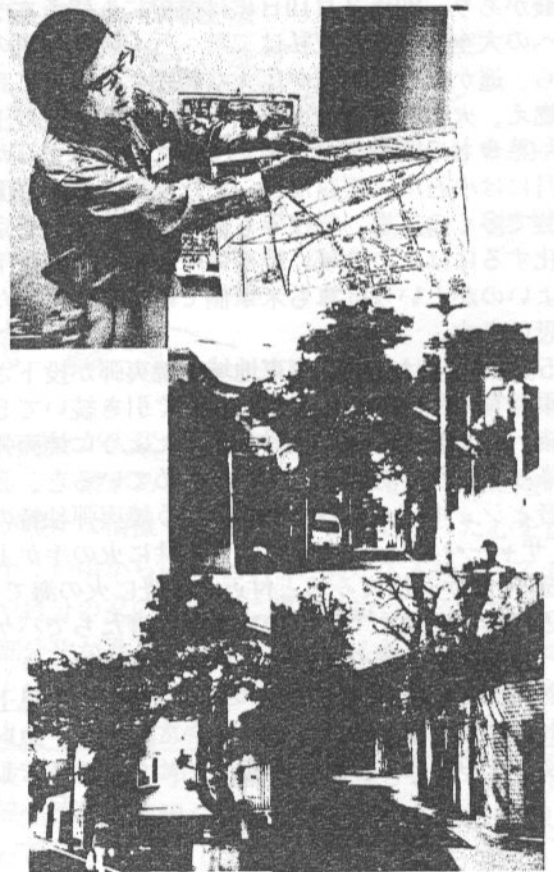
### 第1部 住まいと街を語るPart2 「奥沢の街を語る」

10月11日(土)に土とみどりを守る会の秋のつどいが開かれました。

第1部は「住まいと街を語る」奥沢編で、5月に引き続き、奥沢2丁目に在住の建築家、近藤泰夫さんがお話になりました。日頃目にする身近な街並みについて、スライド画面を使って具体的なお話がありました。

美しい街並みとは周囲との調和を保ったものであること、住宅地の緑が街の風景のために欠かせないものであることがはっきりとわかりました。そして、美しい街並みをつくり出すためには、幼時から木や緑に親しんで豊かな感情をもち、周囲にも気を配る心を育てることが根本であるというお話に、現在の大人の責任を痛感しました。

土地の細分化がどんどん進んでいく中、建築主にも業者にもレベルの高い街並みの形成を考えてもらうには、街づくり協定を一刻も早く制定することが大切です。そのためには、一人でも多くの方々のご意見を頂いて、集約しなくてはなりません。多くの課題を改めて考えさせられたお話でした。



### 第2部 「中国茶の味わい方」



第2部は、中国茶の味わい方、楽しみ方などを奥沢2丁目在住のジャーナリスト、平野久美子さんがお話になりました。お茶というのは、皆同じ茶葉から作るということを初めて知りました。生の緑茶と完全発酵の紅茶の間で、発酵の度合いによって異なる味を楽しむのが中国茶です。種類が豊富で、お茶の入れ方も豪快で、香りを聞く楽しみもあり・・・と、奥行きの深さを感じ入りました。

入口を覗いただけでも大いに興味をそそられて、これから自分で味わいながら知っていくきっかけづくりになりました。さらに、お茶を飲むことで得られる精神的な効用は、今後の街づくり協定づくりの作業にも、きっとプラスになることでしょう。

# おくさわ今と昔

このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、このまちにちなんだエピソードを語っていただきます。

## 奥沢の空襲 (その1)

奥沢2丁目 黒井眞器  
(旧姓 中島)

太平洋戦争末期、米軍では委細調査の上で奥沢周辺に日本の海軍将校たちの自宅が在ることを知っていたようです。東京地区空襲の最後となった昭和20年5月23日と25日には、奥沢駅の南と北のそれぞれ海軍村に焼夷弾が投下され、しかも可成り適確に将校宅が全焼に至りました。戦局が日本側に悪化して本土も襲撃されることになり、昭和19年12月頃から東京に小規模な空襲があり、20年3月10日には歴史にも残る本所、深川への大空襲、その夜私は二階へ行く階段の東の小窓から、遙か向うの地域が広大な範囲にわたって真っ赤に燃え、火の粉が舞い上がり、時に燃える火の玉が多分一キロもの距離を飛び火してゆくのを見ました。

4月には小石川・銀座など、また蒲田・大森方面への空襲で多くの工場、学校等も焼失しました。東京を焼土化するにはどの地域に焼夷弾・爆弾を何個投下すればよいのかという計算も米軍側では完了していたことと思います。

5月23日には奥沢駅南東地域に焼夷弾が投下されて海軍将官の私邸数棟も焼失し、すぐ引き続いて5月25日夜、駅北側の所謂海軍村を狙ったように焼夷弾の雨が降りました。防空壕に身をひそめていると、B29の爆音とシュル・シュル・シュルという焼夷弾独特の落下音「ザー・バシッ!」と当たる音と共に火の手が上がった様子、壕から出てみると付近一帯既に火の海でした。周辺のお宅が燃えているので隣組の者たちでバケツリレーの水かけを繰り返しても火勢は募るばかり、周囲は熱気でほてり、危険になって来ました。ふと見上げるとわが家の二階東隅から火が吹いています。急いで家に戻ってみると父が消火作業を始めたところでした。

<次号へ続く>



## 緑の奥沢

奥沢2丁目 谷口小夜子

私達が奥沢に移って来てから、9年目になりました。ようやく奥沢の住人になれたかしらという所です。

最初に現在住んでいる場所に案内された時は初秋の昼下がりで、人の気配のないとても静かな所という印象でした。

次に来た時は緑ヶ丘の駅に降りましたので、駅前からゆるい坂を登って来る時にあの大櫛があって、トトロの木の様だと思いました。大井町線に乗ったのも初めてで、駅と駅の間隔の短さと踏み切りに驚きながら着きましたので、大櫛を見てほっとしたのを思い出します。とても気に入っていたのですが、その時はご縁がありませんでした。

駅から歩いて10分以内で、近くにスーパーがあって、出来れば緑が多く静か、この様な条件で見て回り、九品仏のお寺の裏に決まりかけた時、もう一度奥沢の話が有り、決まった時は6カ月が過ぎていました。住む所を探し始めて、唯一気に入った所が奥沢2丁目でした。

ようやく奥沢に住み始めた春、道の曲がり角からどちらを向いても、必ず桜の木が見えて、とてもうれしかった事を思い出します。でも近年、大きな屋敷が壊される事が多々有り、多くの緑と共に桜の木も何本も無くなりました。記憶の中だけの桜の木が多くなるのは、本当に残念です。奥沢の緑と桜の木がいつまでもあります様に、心から祈っています。

## <夏のつどい>

<藍の生葉染と草木染めの講習会>を9月12日に奥沢東地区会館で開きました。

午前中は、藍の生葉をもみ出して液をつくり、それぞれの糸や紐で絞ったり縫ったりして柄をつけたスカーフ布を浸して、美しい藍色のスカーフを作りました。

午後は、ラベンダーの花と茎を浸した液を煮てその中にスカーフ布を浸しました。午前中に染めた藍の上に色を重ねたものは更に微妙な色あいになりました。媒染液によってグレーとベージュの異なった色あいに仕上がリ、重ね染めの効果も現れて、オリジナルのスカーフの出来上りに満足の楽しい一日でした。



## 藤正さんのお庭へGO!

奥沢2-24、緑ヶ丘駅に程近い所にお住まいの藤正さんは、かつて瀬田のフラワーランドで花のボランティア養成講座を一年間受講されその後、引き続き四年間花の育苗管理あるいは受講生の指導のお手伝いをされました。現在は友人と二人で、奥沢1-23にある友人の空き地を利用して花や野菜を育て、道行く方々と共に楽しんだり、等々力のデイハウスで花を植え手入れするグループ活動に参加しておられます。

ご自宅の庭には、芽を出したばかりの可愛い双葉をはじめ、ポットあげされた苗、鉢替えされた苗等、種々の花苗が大小整然と並べられ、感動を受けると共にきめ細かな心くばり、花に対する藤正さんの思いの深さが伝わって参りました。

又、建物の側面にはコニファのエリアがあり、土の表面はから松の落ち葉で覆われていました。山

へ行かれた際拾い集めたもので、マルチングの材料として利用しているのだそうです。隣接する駐車場には、中程に樹齢を思わせる桜の木がしっかりと残されていました。聞くところによりますと昭和11年にご両親がこの地に新居を構えた折り、記念に植えられたとのこと。現在はお兄様が管理されているようですが、親への思いや緑を大切にしようというお気持ちが伝わってくるようで、とても心温まる思いをいたしました。

最後に藤正さんのひとこと。「花や植物の持つ力は本当に大きい。作業しているときに、道行く方たちにかけて下さる声がとてもやさしく温かいです。」

### 藤正さん流古い土の再生法

1. ビニールの上で干し洗う
2. 苦土石灰を混ぜ一週間程放置しておく
3. 腐葉土・もみがらくん炭・パーライトを加えて利用する

(杉村)



## 住まいと街を語る

### Part II

#### —奥沢らしさの発見とこれからの課題—

最初に奥沢1~5丁目のマップをスケッチしたボードを示しながら街区、地形、地理などの簡単な説明をされ、次いで奥沢を観察するというところから街づくりの約束ごと(ルール)について考えていきたいと話されました。

「前回、みなさんと一緒に辿った日本や西欧の各地の街並みや、人々のつくってきた建物や美術の姿をふりかえりながら、人間の手とか愛情をこめて作り出した様々なものが快い場所や美しいものを美しいと感じる心を育てる文化的財産となっていること、優れた音楽を聴いたり絵画を見るのは楽しいことだが、それと同じようにあの街角を歩いて見たいと思うような街並みを持つことは創造的な文化である」と語り、本日の主題に入りました。

#### 奥沢の景観に寄与している樹木を大切にしたい

最近、近藤さんの事務所がある杉並区である日バツサリと樹木が伐られることがあり、そのことについて調べてみると、木の持ち主は周囲の圧力に耐えかねて木を伐ってしまったというケースが殆どであることがわかったそうです。

枯れ葉の掃除が大変だ、樋の詰まったのをどうしてくれる等等苦情があるが、「生活の中で木や緑に触れることが豊かな情操や人への思いやりといった心を育てる。小さい頃からのそういう経験が大人になっても街並みや自分の家のまわりに関心を持つようになる。土地の細分化が進み緑が減少していくなかで自然への親しみということの意味の深さを考えてほしい。」

「人にとっての快適なだけの自然など無い」「この会では街並みに潤いを与え、景観に寄与している樹木を指定し周囲の人の理解を得ることを活動のひとつとして考えたらどうか。」具体的に20カ所ほどの対象となる例を参考に示された。

住まいと街をつなぐもの 家と道との接点にあたる植え込みや門の塀、車庫やアプローチなどの扱いに優れているお宅の例を12点挙げ、こうした良い例を街並み景観賞といったかたちで選定して皆さんにアピールするのも効果的ではないかと提案された。

そしてこれとは別に良くないと思われる例を10程示して、何が良くないのかを具体的に話された。

「野中の一軒家はありえない しかし、自分の家も他人から借景されていることに気づかない。中には恥ずかしくなるような家を建てる人もいる。かって日本人はそうしたことにしなやかな感受性をもっていたはずなのに。」

裏面に続く

## 一杯のお茶から学ぶ東洋の心

「特に最近目立つのは擬石の使用である」 建売住宅はその殆どがこれでもかと外壁や扉に使っている。マジックストーンとかパーマストーンとかの商品名があるが、要はセメントを材料としてそれに色をつけて石らしく見せて高級感を狙ったもの。その安手さと品性の無さは好き嫌いといった好みの問題ではない。放っておくと奥沢の街の表情は随分と趣味の悪いものに墮していく危惧を覚える。おなじコストでいくらでも素朴で味わい深い材料のあることを皆さんに知ってもらうことも大事だと感じる。街特有の風景や街並みの良さといったものは一朝一夕にはできないけれども、それを壊す方は簡単に進行して行く」と東京や大阪など各地で街づくりに携わってきた体験から力説された。

### 古い家の無い街は思い出のない人間と同じである

とドイツの言葉をひかれて歴史を刻んだ建物の維持・保全に協力していくことを活動の一環としたいと語り「長く生きながらえてきた建物であるだけに難しい問題もある。その維持や建て替えなどに際して修復や一部の保存などの方法は専門家の協力が必要となるが、ともかく人びとの記憶に残る建物を大切にしましょう」**色彩の騒音** 建物の色彩について具体的な例を示し、「赤や黄色は本来は警告や刺激の色。住宅地にまでこうしたどぎつい色が及んでくると色彩の騒音になる。同系の色でも色彩や明度により随分異なるものである」その他、街並みの表情をつくるうえでの道路の隅切り部の扱い、2項道路のセットバックのことなどに話は及び、60枚のスライドを使って例を示しながらのお話を終りました。

出席者からは、特に古いお家にお住まいのかたから

「引用されたドイツの言葉が心に残った。いままで気にしていたけれど励まされた気になった。」との発言「大音寺の2本の松のことは知らなかった、たしかに奥沢の文化財的価値がある」「緑を大切にしてくることの必要を学んだ」「税制に問題がある」「これからの活動が大切」といった感想が述べられました。

## 会からのお知らせ

- 秋のつどいⅡまちなみウォッチングは、11月17日(土)10時からです。今年は玉川田園調布のまちなみをウォッチングします。くわしくはチラシをご覧ください。たくさんの方のご参加をお待ちしています。
- 土とみどりを守る会では、毎月定例会を開いています。会の趣旨にご賛同下さる方、ご意見をお持ちの方、得意分野でお手伝い下さる方どうぞご参加ください。
- 各欄への投稿記事を募っています。ご面倒な方には、こちらからインタビューに伺います。カット・イラストもお寄せ下さい。また、記事に関するご感想・ご意見をお聞かせ下さい。
- 土とみどりを守る会では、ガーデンシュレッダー(せんてい枝粉砕機)を貸し出しています。落とした枝をチップにしてお庭の土にまいたり肥料にできます。

奥沢の界隈を歩いていると、「中国茶」がとても似合いそうな古い木造家屋に出会います。台湾では日本植民地時代(1895~1945)に建てられた日本式家屋に手を入れて、茶藝館(中国式の喫茶店)にしていることが多く、豊の部屋で薫りの高い烏龍茶や龍井茶が味わえるのです。大正、昭和の初期の民家が、老荘思想を核とする中国喫茶の精神にぴったりとは意外に思われるでしょうが、台湾の人々は、自然素材を多く使った日本の古い民家の人の心なごませ、どこかで大きな宇宙につながっていると信じているようです。現在、台北市では、日本時代の建物を市の予算で改築し、一杯のお茶からひろがる文化交流の場として市民に提供をしています。

日本の茶道を通じて、東洋のすぐれた精神性を説いたのは、明治時代の知識人岡倉天心でした。

「その象牙色の茶器に満たされた琥珀色の液体の中に、孔子の玄妙なる沈黙、老子の辛辣なる渋味、そしてまた、釈迦牟尼の天上の芳香を味わう事ができるのです。」(「茶の本」岡倉天心著 ソートン・F・直子訳)

天心の言葉をこの1年ほど思い知ったことはありませんでした。なぜなら、2丁目の実家の隣に巨大な住宅が建設され、10カ月以上もストレスにさらされたからです。心を鎮め、関係者の方とコミュニケーションを図ろうと、どれだけお茶を飲んだことでしょうか。「さあ、お茶にしましょう」

この言葉には、つかのまでも日常から離れて精神を遊ばせよう、無為自然の境地に近づこう、心を開いて話しあおう、といった願いが込められています。

今、私たちが取り組むべき住環境の問題も、知恵を出し合えば道は開けるはず。それには一人でも多くの住民が互いに話し合うこと、分かり合うことです。一杯のお茶から、そんな機会が持てたら、と思うこの頃です。(平野)

## 土地の動き情報

○奥沢2-45の大井町線踏切際の土地・2-19-8石川邸跡地など2丁目に空き地が目立ってきました。折込広告にも2丁目の売地が何カ所も入っています。奥沢全域ではどれほど土地が動いているのでしょうか。

### 編集後記

2丁目の黒井さんが、この奥沢が50数年前に空襲を受けた様子を書いて下さいました。今アフガンの人々の苦しみを想像すると日本の平和を心から有り難く思います。

土とみどりを守る会		連絡先
奥沢2-19-9	長瀬雅義	5729-0126
奥沢2-41-2	柳島尚子	3718-8558